

**Oracle® Server X5-2L Windows Server オ
ペレーティングシステムインストールガイ
ド**

ORACLE®

Part No: E58213-01
2014 年 10 月

Part No: E58213-01

Copyright © 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	7
Microsoft Windows Server オペレーティングシステムのインストールについて	9
Windows OS のインストールのタスクマップ	9
サポートされている Windows Server オペレーティングシステム	10
Windows Server 2012 用の大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA	11
コンソール表示オプションの選択	12
コンソール表示オプション	12
▼ ローカルコンソールを設定する	12
▼ リモートコンソールを設定する	13
ブートメディアオプションの選択	14
ブートメディアオプションの要件	14
▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する	15
▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する	16
インストール先オプションの選択	19
インストール先のオプション	19
▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する	19
▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する	20
Windows OS のインストールオプション	20
単一サーバーへのインストール方法	21
Windows Server OS の補助付きインストール	22
Windows Server OS の手動インストール	22
Windows 展開サービスによる OS のインストール	22
Oracle System Assistant の概要	22
「Get Updates」 および 「Install OS」 タスク	23
Oracle System Assistant の取得	23

Windows Server オペレーティングシステムのインストール準備	25
ブート環境の準備	25
▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する	26
▼ ブートモードを設定する	28
RAID の構成	31
Windows Server オペレーティングシステムのインストール	33
関連情報	33
準備作業	33
Oracle System Assistant を使用した Windows Server の単一システムへのインストール	34
▼ Oracle System Assistant を使用して Windows Server を単一システムにインストールする	34
Windows Server の単一システムへの手動でのインストール	38
▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 を手動でインストールする	39
▼ PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする	58
Windows Server のインストール後のタスク	65
追加ソフトウェアコンポーネントオプション	65
デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール	66
▼ サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする	67
Intel NIC チーミングの構成	68
索引	69

このドキュメントの使用法

- **概要** – このインストールガイドでは、Windows オペレーティングシステムのインストール手順と、Oracle Server X5-2L を構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、認定サービスプロバイダ、およびユーザー。
- **必要な知識** – オペレーティングシステムのインストール経験。

製品ドキュメントライブラリ

この製品の最新情報や既知の問題は、ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/X5-2L/docs>) に含まれています。

Oracle サポートへのアクセス

Oracle サポートサービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> を参照してください。聴覚に障害をお持ちの場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのアクセシビリティ

アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについては、Oracle Accessibility Program の Web サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

Microsoft Windows Server オペレーティングシステムのインストールについて

このセクションでは、サーバーに新しい Microsoft Windows Server 2012 または 2012 R2 オペレーティングシステム (OS) をインストールするための概要について説明します。

説明	リンク
Windows オペレーティングシステムのインストール手順を確認します。	“Windows OS のインストールのタスクマップ” on page 9
サポートされている Windows オペレーティングシステムを確認します。	“サポートされている Windows Server オペレーティングシステム” on page 10
SAS HBA のストレージドライバの要件を確認します。	“Windows Server 2012 用の大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA” on page 11
コンソール表示オプションとそれらの設定方法を確認します。	“コンソール表示オプションの選択” on page 12
ブートメディアオプションとそれらの設定方法を確認します。	“ブートメディアオプションの選択” on page 14
インストール先オプションとそれらの設定方法を確認します。	“インストール先オプションの選択” on page 19
オペレーティングシステムのインストールオプションを確認します。	“Windows OS のインストールオプション” on page 20
Oracle System Assistant を確認します。	“Oracle System Assistant の概要” on page 22

関連情報

- [「Windows Server オペレーティングシステムのインストール」 33 ページの](#)

Windows OS のインストールのタスクマップ

次の表は、Windows Server オペレーティングシステムをインストールするための手順の一覧と説明を示します。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Server X5-2L 設置ガイド の“サーバーのラックへの設置” ■ Oracle Server X5-2L 設置ガイド の“サーバーの配線” ■ Oracle Server X5-2L 設置ガイド の“Oracle ILOM への接続”
2.	サーバー上でサポートされている Windows Server のバージョンを確認します。	“サポートされている Windows Server オペレーティングシステム” on page 10
3.	Windows Server のインストールメディアを入手します。	http://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/default.aspx
4.	プロダクトノートを確認します。	『Oracle Server X5-2L プロダクトノート』 (http://www.oracle.com/goto/X5-2L/docs)
5.	インストールの実行に使用するコンソール、ブートメディア、インストール先を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ “コンソール表示オプションの選択” on page 12 ■ “ブートメディアオプションの選択” on page 14 ■ “インストール先オプションの選択” on page 19
6.	BIOS を確認し、必要に応じて構成します。	「ブート環境の準備」 25 ページの
7.	Windows Server オペレーティングシステムをインストールします。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「Oracle System Assistant を使用して Windows Server を単一システムにインストールする」 34 ページの ■ 「ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 を手動でインストールする」 39 ページの ■ 「PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする」 58 ページの
8.	インストール後のタスクを実行します (該当する場合)。	“Windows Server のインストール後のタスク” on page 65

関連情報

- [「Windows Server オペレーティングシステムのインストール準備」 25 ページの](#)

サポートされている Windows Server オペレーティングシステム

サーバーは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

Windows OS	エディション
■ Windows Server 2012	■ Standard Edition (64 ビット)

Windows OS	エディション
	<ul style="list-style-type: none"> ■ Datacenter Edition (64 ビット)
<ul style="list-style-type: none"> ■ Windows Server 2012 R2 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Standard Edition (64 ビット) ■ Datacenter Edition (64 ビット)

Note - Windows Server オペレーティングシステムのすべての最新要件については、<http://www.oracle.com/goto/X5-2L/docs>にある最新バージョンの『Oracle Server X5-2L プロダクトノート』を参照してください。

Oracle Solaris ハードウェア互換リスト (HCL) には、Oracle ハードウェアでサポートされている最新のオペレーティングシステムバージョンが示されています。サーバーでサポートされている Windows の最新バージョンを見つけるには、次のサイトにアクセスし、サーバーのモデル番号を使用して検索してください。<http://www.windowsservercatalog.com/>

関連情報

- 「Windows Server オペレーティングシステムのインストール」 33 ページの

Windows Server 2012 用の大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA

次の表に、このドキュメントの発行時点でサーバーでサポートされている SAS 外部 PCIe ホストバスアダプタ (HBA) オプションを示します。この SAS 外部 PCIe HBA がサーバー上に構成されているときに Microsoft Windows Server 2012 をインストールする場合は、Windows Server 2012 オペレーティングシステムをインストールするときに HBA 用の大容量ストレージドライバをロードする必要があります。この大容量ストレージドライバは、内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブで使用できます。

TABLE 1 大容量ストレージドライバを必要とする、サポートされている SAS PCIe HBA

サポートされている SAS PCIe HBA	モデル番号	インストール中に必要なドライバ
Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe 外部 HBA	7110118/7110119	LSI アダプタ、SAS3 3008 Fury-StorPort (LSI_SAS3.INF)

Windows Server 2012 のインストール中に大容量ストレージドライバをロードする手順は、「[Windows Server の単一システムへの手動でのインストール](#)」 38 ページのに示されています。

サーバーに内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブが装備されていない場合は、ドライバを含む ISO イメージをダウンロードできます。ダウンロード手順については、[Oracle Server X5-2L 設置ガイド](#)の“サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手”を参照してください。

コンソール表示オプションの選択

このセクションでは、インストールを実行するためにコンソールを接続するオプションについて説明します。

- “コンソール表示オプション” on page 12
- “ローカルコンソールを設定する” on page 12
- “リモートコンソールを設定する” on page 13

コンソール表示オプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末
端末を、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続した端末エミュレータに接続することもできます。
- ビデオポート (VGA) と 4 つの外部 USB コネクタのいずれかに直接接続した VGA モニター、USB キーボード、および USB マウス

また、サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります。

- Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への Secure Shell (SSH) クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

1. ローカルコンソールを接続するには、次のいずれかを実行します。
 - 端末をシリアル管理ポート (SER MGT) に直接、または端末エミュレータ経由で接続します。

Note - シリアル管理ポートのデフォルトの速度は 9600 ボーです。

- VGA モニター、キーボード、およびマウスをビデオポート (VGA) と USB ポートに接続します。
2. シリアル管理ポート (SER MGT) 接続の場合のみ、ホストシリアルポートへの接続を確立するには、次のようにします。
 - a. Oracle ILOM のユーザー名とパスワードを入力します。

デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root であり、パスワードは changeme です。
 - b. Oracle ILOM ログインプロンプトで、次を入力します。

-> `start /HOST/console`

シリアル管理ポート出力は、サーバーの Linux ホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリ

▼ リモートコンソールを設定する

1. サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。

コマンド行インタフェース (CLI) または Web インタフェースを使用してリモートから Oracle ILOM にログインするには、サーバーのサービスプロセッサ (SP) の IP アドレスを知っている必要があります。手順については、[Oracle Server X5-2L 設置ガイド](#)の「サービスプロセッサのネットワーク設定の表示または変更」を参照してください。
2. Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、これらの手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。
 - a. Web ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。
 - b. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。

デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root であり、パスワードは changeme です。

Oracle ILOM の「Summary Information」ページが表示されます。

- c. **Oracle ILOM** リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動することによって、ビデオ出力をサーバーから **Web** クライアントにリダイレクトします。
3. **SSH** クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。
 - a. シリアルコンソールから、サーバー **SP** への **SSH** 接続を確立します。「`ssh root@hostname`」と入力します。
ここで、`hostname` にはサーバー **SP** の DNS 名または IP アドレスを指定できます。
 - b. **Oracle ILOM** にログインします。
デフォルトの Oracle ILOM は **root** であり、パスワードは **changeme** です。
 - c. シリアル出力をサーバーから **SSH** クライアントにリダイレクトします。次を入力します。
-> `start /HOST/console`

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリ

ブートメディアオプションの選択

ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートすることによって、サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始できます。このセクションでは、サポートされているメディアソースと各ソースのセットアップ要件について説明します。

- “ブートメディアオプションの要件” on page 14
- “ローカルインストール用のブートメディアを設定する” on page 15
- “リモートインストール用のブートメディアを設定する” on page 16

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- “ローカルブートメディアの要件” on page 15
- “リモートブートメディアの要件” on page 15

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイス、またはサーバーに接続された外付けストレージデバイスが必要です。

サポートされている OS のローカルブートメディアソースには、次のものがあります。

- CD/DVD-ROM インストールメディア
- USB リムーバブルフラッシュドライブメディア

リモートブートメディアの要件

リモートメディアでは、ネットワーク経由でインストールをブートする必要があります。インストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、または Pre-Boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク経由で ISO イメージをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものがあります。

- CD/DVD-ROM インストールメディア、およびリモートの USB リムーバブルフラッシュドライブインストールメディア
- 仮想リダイレクション用に設定されたネットワーク上の場所で使用できる CD/DVD ISO イメージ
- サーバーのサービスプロセッサ (SP) にマウントされた CD/DVD-ROM インストールメディアイメージ

サーバー SP へのインストールイメージのマウントについては、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。あるいは、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページにある「More Details」リンクを参照してください。

- 自動インストールイメージ (PXE ブートが必要)。サポートされている Windows Server オペレーティングシステムの PXE ネットワークインストールを実行する手順については、「[PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする](#)」58 ページのを参照してください。

▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する

ローカルブートメディアを設定するには、次のいずれかのオプションを使用して、Windows Server OS のインストールメディアを含むストレージデバイスをサーバーに挿入する必要があります。

1. サーバーにオプションの DVD ドライブが装備されている場合は、サーバー前面の DVD ドライブに Windows Server OS インストール DVD を挿入します。それ以外の場合は、次の手順に進みます。
2. サーバーに DVD ドライブが装備されていない場合は、サーバーの前面および背面に配置されている外部 USB ポートのいずれかに、Windows Server OS のインストールメディアを含む外付け USB DVD ドライブまたは USB フラッシュドライブを挿入します。

Note - サーバーの外部 USB ポートの場所については、[Oracle Server X5-2L 設置ガイド](#)の「サーバーの機能とコンポーネント」を参照してください。

▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する

Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用して、リモートの場所をソースとするメディアから OS をインストールするには、次の手順を実行します。

1. リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、これらの手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。
 - a. OS ブートメディアをマウントまたは認識させてアクセスできるようにします。

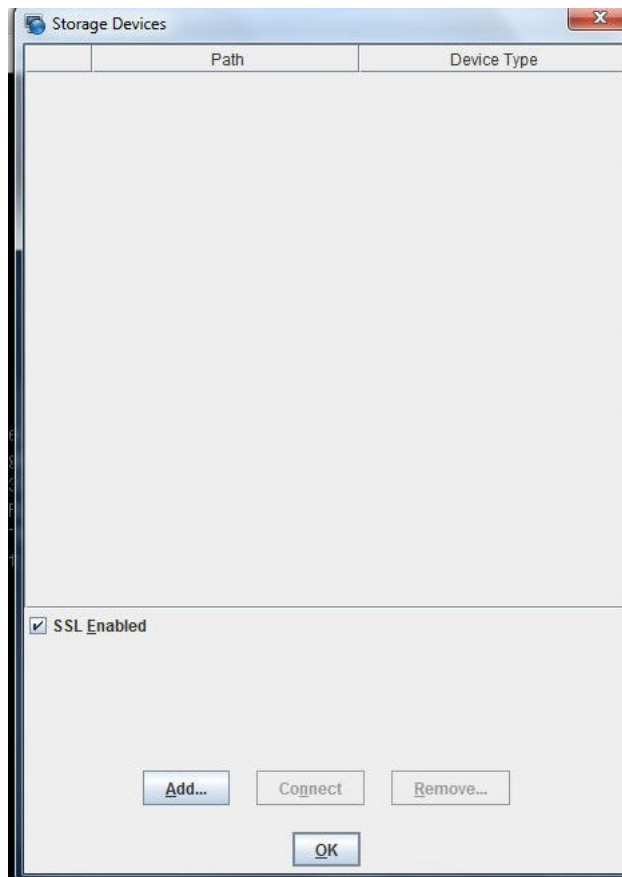
例:

 - **CD/DVD-ROM の場合は**、リモートシステム上の組み込み型または外付け CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。
 - **CD/DVD-ROM ISO イメージの場合は**、その ISO イメージがネットワーク上の共有された場所ですぐに使用できるか、またはサーバーのサービスプロセス (SP) にマウントされていることを確認します。

サーバー SP へのインストールイメージのマウントについては、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。あるいは、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページにある「More Details」リンクを参照してください。
2. サーバー Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動します。

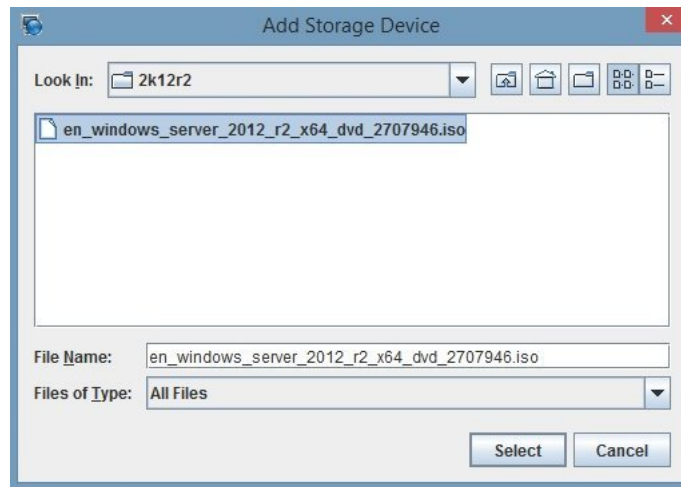
詳細は、「[コンソール表示オプションの選択](#)」 on page 12 に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。
3. リモートコンソールで、次の手順を実行します。
 - a. 「KVMS」をクリックして、「KVMS」ドロップダウンメニューを表示します。

- b. 「Storage」をクリックします。
「Storage Devices」ダイアログが表示されます。



- c. 「Storage Devices」ダイアログで、「Add」をクリックします。

「Add Storage Device」ダイアログが表示されます。



- d. ISO イメージを参照して選択し、「Select」をクリックします。
「Storage Devices」画面が表示され、ISO イメージが一覧表示されます。
 - e. ISO イメージを選択し、「Connect」をクリックします。
ISO イメージがリモートコンソールにマウントされ、OS インストールの実行に使用できるようになります。
4. PXE を使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。
- a. PXE ブートを使用して、インストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを構成します。
 - b. OS インストールメディアを PXE ブートで利用できるようにします。
自動 OS インストールイメージを使用する場合は、自動 OS インストールイメージを作成して提供する必要があります。
インストールのセットアッププロセスを自動化する詳しい手順については、Windows オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。
 - c. インストールメディアをブートするには、サーバーの BIOS 設定ユーティリティの「Please Select Boot Device」メニューで、一時ブートデバイスとして PXE ブートインタフェースカードを選択します。

PXE ネットワークブートを使用して Windows Server のインストールを実行するための詳細は、「[PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする](#)」58 ページの[を参照してください](#)。

インストール先オプションの選択

このセクションでは、インストール先を設定する方法について説明します。

- “インストール先のオプション” on page 19
- “ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する” on page 19
- “ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する” on page 20

インストール先のオプション

組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (Oracle System Assistant 用に予約されています) と、オプションの NVMe ストレージドライブ (サーバーのフロントパネルにあります) を除き、サーバーに取り付けられたどのストレージドライブにもオペレーティングシステムをインストールできます。これらにはハードディスクドライブ (HDD) と半導体ドライブ (SSD) があります。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けのファイバチャネルストレージデバイスにインストールすることを選択できます。

Note - NVMe ドライブは、Windows Server オペレーティングシステムを実行しているサーバーではサポートされません。サーバーに NVMe ドライブが装備されている場合にこれらのドライブを使用するには、Oracle Solaris または Oracle Linux オペレーティングシステムのどちらかをインストールする必要があります。

▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する

- ターゲットのドライブ (HDD または SSD) が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。

HDD または SSD の取り付けと電源の投入方法については、[Oracle Server X5-2L サービスマニュアルの“ストレージドライブおよび背面ドライブ \(CRU\) の保守”](#)を参照してください。

Note - NVMe ドライブをインストール先として使用することはできません。これらのドライブは、オペレーティングシステムのインストールやブートをサポートしていません。

▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する

1. **PCIe ホストバスアダプタ (HBA) がサーバーに正しく取り付けられていることを確認**します。

PCIe HBA オプションの取り付けについては、[Oracle Server X5-2L サービスマニュアルの“PCIe カード \(CRU\) の保守”](#)を参照してください。

2. **Storage Area Network (SAN) をインストールおよび構成して、サーバー上のホストでストレージデバイスが認識されるように**します。

手順については、ファイバチャネル HBA に付属のドキュメントを参照してください。

Windows OS のインストールオプション

単一サーバーへの OS のインストールの場合は、Oracle System Assistant が推奨されます。複数のサーバーへの OS のインストールの場合は、Oracle Enterprise Manager Ops Center が推奨されます。このドキュメントの範囲は、単一サーバーへの OS のインストールです。次の表に、これら 2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用して、複数のサーバーに OS をインストールできます。詳細は、 http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html を参照してください。
単一サーバー	次のいずれかの方法を使用して、OS を単一サーバーにインストールします。 <ul style="list-style-type: none">■ ローカル: サーバーの場所でローカルに OS のインストールを実行します。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。■ リモート: リモートの場所から OS のインストールを実行します。このオプションでは、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用して Oracle System Assistant にアクセスするか、または OS の手動インストールを実行します。

オプション	説明
	Note - Oracle は、単一サーバーへの OS のインストールには Oracle System Assistant の使用をお勧めします。

単一サーバーへの OS のインストール方法と Oracle System Assistant の詳細は、次を参照してください。

- “単一サーバーへのインストール方法” on page 21
- “Oracle System Assistant の概要” on page 22

単一サーバーへのインストール方法

Windows のインストールメディアを提供する方法を選択します。次の情報を使用して、ニーズにもっとも適した OS のローカルまたはリモートインストールを決定してください。

メディアの提供方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール – Oracle System Assistant を使用します。(推奨)	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および Windows の配布メディア。詳細は、“ Windows Server OS の補助付きインストール ” on page 22 を参照してください。
リモートでの補助付き OS インストール – Oracle System Assistant を使用します。(推奨)	Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーション、リダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、および Windows の配布メディア。詳細は、“ Windows Server OS の補助付きインストール ” on page 22 を参照してください。
CD/DVD ドライブを使用したローカル – サーバーに接続された物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、および Windows の配布メディア。ローカルインストールの場合は、サーバーに直接接続されたローカルの DVD ドライブまたは USB フラッシュドライブを使用してインストールメディアを提供します。詳細は、“ Windows Server OS の手動インストール ” on page 22 を参照してください。
CD/DVD ドライブまたは CD/DVD ISO イメージを使用したリモート – Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを実行しているリモートシステム上で、リダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザ、接続された物理 CD/DVD ドライブ、Windows の配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセスを備えたリモートシステム。リモートインストールの場合は、リモートの DVD、USB フラッシュドライブ、または CD/DVD ISO イメージを使用してインストールメディアを提供します。詳細は、“ Windows 展開サービスによる OS のインストール ” on page 22 を参照してください。
WDS WIM イメージ – Windows 展開サービス (WDS) サーバー上のカスタマイズされた Windows Imaging Format (WIM) イメージを使用します。	WDS を実行しているサーバー、および使用しているサーバー用にカスタマイズされた WIM イメージ。詳細は、“ Windows 展開サービスによる OS のインストール ” on page 22 を参照してください。

Windows Server OS の補助付きインストール

これは、サポートされている OS をサーバーにインストールするための推奨される方法です。この方法では、Oracle System Assistant を使用します。Windows OS のインストールメディアを、ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/DVD イメージのいずれかで提供すると、Oracle System Assistant がインストールプロセスを進め、必要に応じて必要なドライバを収集してインストールします。使用しているサーバーで Oracle System Assistant がサポートされ、そのサーバーにインストールされている必要があります。

Windows Server OS の手動インストール

この方法では、Windows の配布メディアを、ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/DVD イメージのいずれかで提供します。また、必要なドライバをすべてインストールすることも必要です。サーバー用のドライバは、サーバーの内蔵 Oracle System Assistant フラッシュドライブ (取り付けられている場合) で使用できるほか、My Oracle Support Web サイトからも OS 固有およびサーバー固有のパッケージまたは ISO イメージファイルとして入手できます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

Windows 展開サービスによる OS のインストール

展開サーバー環境から Windows OS をインストールできます。上級ユーザーは、Windows 展開サービス (WDS) を実行しているシステム上のサーバー用にカスタマイズされた Windows Imaging Format (WIM) イメージを作成できます。こうしたインストールイメージファイルを作成しておくことで、ネットワークカードからサーバーをブートして、無人展開用に WDS システムからそのイメージを選択することが可能です。WDS の詳細は、<http://technet.microsoft.com/library/hh831620> にアクセスしてください。

Oracle System Assistant の概要

Oracle System Assistant は、Oracle x86 サーバー向けの単一サーバーのシステム管理ツールです。Oracle System Assistant は、Oracle のシステム管理製品と選り抜きの関連ソフトウェアを統合して、サーバーの迅速かつ便利な構成および保守を可能にするツール群を提供します。

Oracle System Assistant には、ローカルコンソール接続を使用してローカルで、または Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用してリモートでアクセスできます。

サーバーのインストールを完了したばかりの場合は、Oracle System Assistant のローカルでの (物理的にサーバーの場所に存在する間の) 使用が、サーバーを迅速かつ効率的に構成するための方法になります。サーバーの稼働後は、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

Oracle System Assistant のコンポーネントには、次のものが含まれます。

- Oracle System Assistant アプリケーション
- Oracle Hardware Management Pack
- 構成と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- Oracle System Assistant のコマンド行環境
- オペレーティングシステムのドライバとツール
- サーバー固有のファームウェア
- サーバー関連のドキュメント

Oracle System Assistant は、組み込みストレージデバイス (USB フラッシュドライブ) としてサーバーの内部に存在し、出荷時に、オンライン更新の使用などを通して保守されるサーバー固有のバージョンのツールおよびドライバを使用して構成されます。

Oracle System Assistant の詳細は、次のトピックを参照してください。

- “「Get Updates」 および「Install OS」 タスク” on page 23
- “Oracle System Assistant の取得” on page 23

Oracle System Assistant の詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

「Get Updates」 および 「Install OS」 タスク

Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバとほかのファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、HBA、および該当する場合はエキスパンダ) を更新する場合は、OS をインストールする前に「Get Updates」タスクを実行するようにしてください。

Oracle System Assistant アプリケーションの「Install OS」タスクを実行すると、サポートされている OS をガイドに従ってインストールできます。OS インストールメディアを用意すれば、Oracle System Assistant が示す手順に従ってインストールプロセスを実行できます。そのあと、サーバーのハードウェア構成に基づいて適切なドライバを取得します。

Oracle System Assistant の取得

サーバーは Oracle System Assistant をサポートしているため、Oracle System Assistant USB フラッシュドライブがすでにサーバーに取り付けられている可能性があります。

す。取り付けられている場合、Oracle System Assistant の「Get Updates」タスクを使用して、最新のソフトウェアリリースに更新できます。Oracle System Assistant がサーバーにインストールされているが、破壊または上書きされている場合は、My Oracle Support Web サイトから Oracle System Assistant Updater イメージをダウンロードしてください。ダウンロード手順については、[Oracle Server X5-2L 設置ガイド](#) の“サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手”を参照してください。

サーバーに Oracle System Assistant が存在するかどうかを確認する方法、および更新や回復手順を実行する方法の詳細は、『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

関連情報

- 『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

Windows Server オペレーティングシステムのインストール準備

このセクションでは、オペレーティングシステムをインストールできるようにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
UEFI の設定。	25 ページの「ブート環境の準備」
ブートモードの設定。	28 ページの「ブートモードを設定する」
サーバーでの RAID の構成。	31 ページの「RAID の構成」

関連情報

- [34 ページの「Oracle System Assistant を使用した Windows Server の単一システムへのインストール」](#)
- [38 ページの「Windows Server の単一システムへの手動でのインストール」](#)

ブート環境の準備

オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) 設定が構成されていることを確認するようにしてください。次のトピックでは、インストールをサポートするように UEFI を構成する方法について具体的に説明しています。

- [26 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」](#)
- [28 ページの「ブートモードを設定する」](#)

ブートプロパティの変更の詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する

注記 - サーバーが新しく設置され、オペレーティングシステムがはじめてインストールされる場合は、おそらく UEFI がその最適なデフォルト設定に構成されているため、この手順を実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて UEFI 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。最適なデフォルト値を設定することで、サーバーが既知の適切な構成で効率的に動作するようになります。最適なデフォルト値は『Oracle Server X5-2L サービスマニュアル』で確認できます。

BIOS 設定ユーティリティで (F2 キーを使用して) 行なった変更はすべて、次回に変更されるまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、BIOS の起動中に F8 キーを使用して一時ブートデバイスを指定することもできます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 キーを使用して指定した常時ブートデバイスが有効になります。

始める前に 次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が搭載されています。
- サーバーに HDD または SSD が正しく取り付けられています。手順については、『Oracle Server X5-2L サービスマニュアル』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細は、[on page 12](#)「コンソール表示オプションの選択」を参照してください。

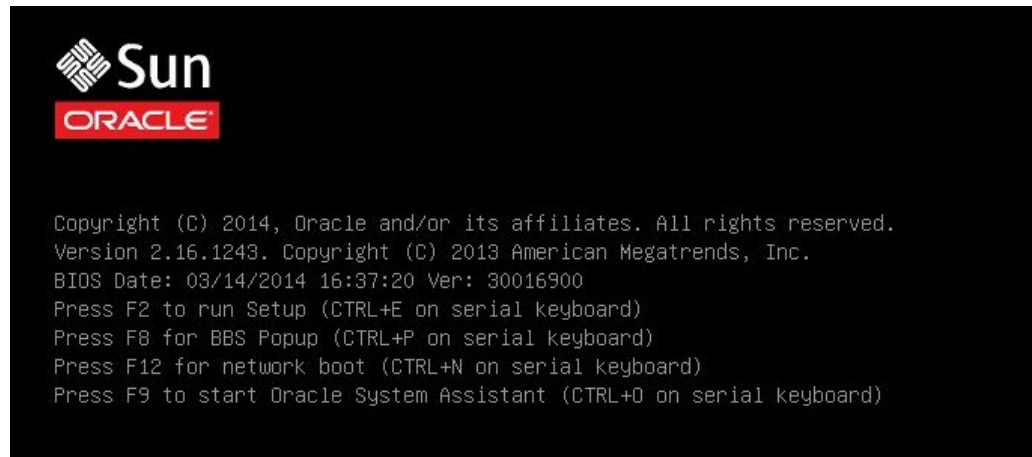
1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI から**、「`reset /System`」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

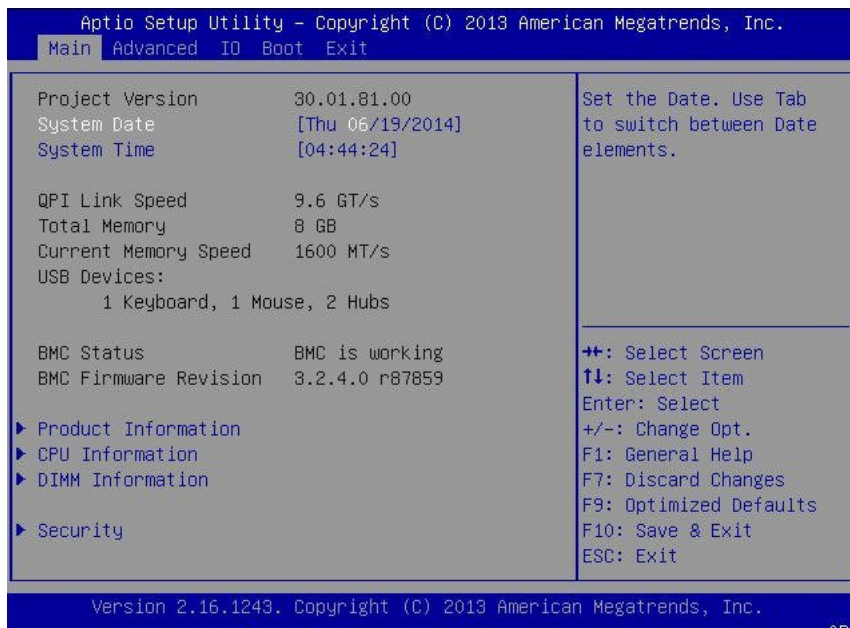
注記 - BIOS 画面の表示には少し時間がかかることがあります。しばらくお待ちください。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

2. **BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。**
「[Setup Selected]」および「Boot Mode」(「Legacy」または「UEFI」)が BIOS 画面の最下部に表示されてから、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

注記 - BIOS 設定ユーティリティー画面の表示にはしばらくかかることがあります。しばらくお待ちください。



3. **F9** キーを押すと、最適なデフォルト設定が自動的にロードされます。
「OK」を選択してこの操作を続行するか、または「CANCEL」を選択してこの操作を取り消すよう求めるメッセージが表示されます。
4. メッセージの「OK」を強調表示して、**Enter** キーを押します。
5. 変更を保存して **BIOS 設定ユーティリティー** を終了するには、**F10** キーを押します。
あるいは、「Exit」メニューから「Save and Exit」を選択できます。

▼ ブートモードを設定する

サーバーには、レガシー BIOS と UEFI の両方のブートモードをサポートする UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) が装備されています。デフォルトでは、レガシー BIOS ブートモードが有効になります。Windows Server 2012 および 2012 R2 オペレーティングシステムはレガシー BIOS と UEFI の両方をサポートしているため、OS のイ

インストールを実行する前に、ブートモードをレガシー BIOS または UEFI のどちらにも設定できます。

注記 - Windows Server オペレーティングシステムをインストールしたあとでレガシー BIOS ブートモードから UEFI ブートモードに (またはその逆に) 切り替えることにした場合は、すべてのパーティションを削除し、オペレーティングシステムを再インストールする必要があります。

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI から**、「`reset /system`」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

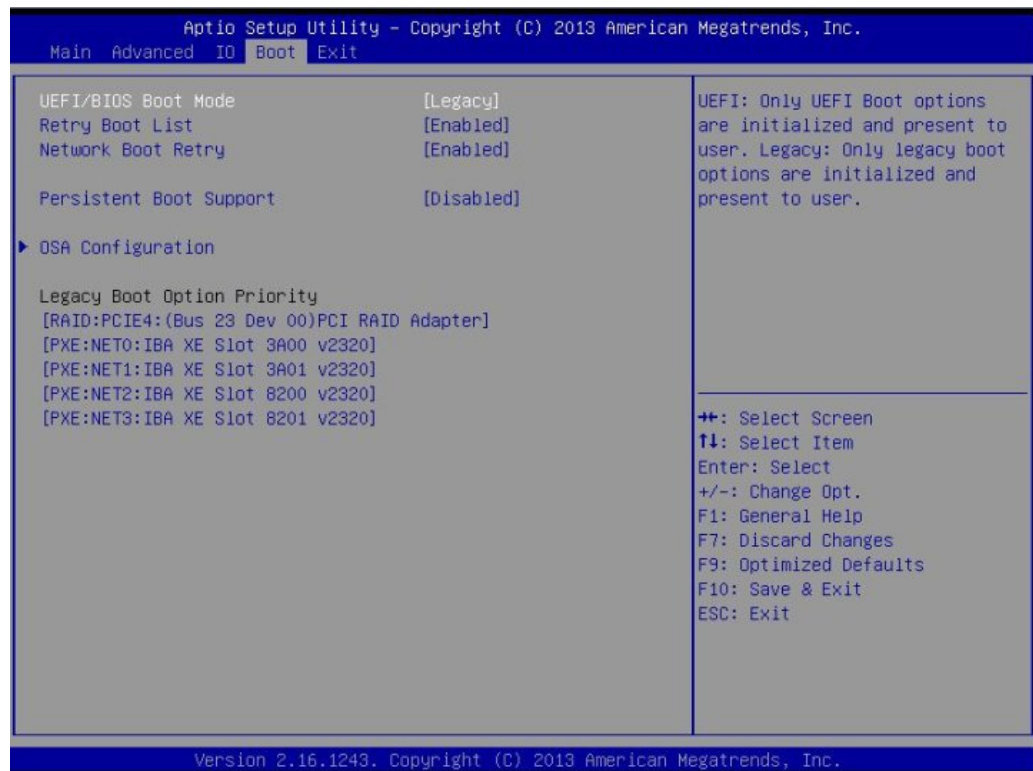
注記 - BIOS 画面の表示には少し時間がかかることがあります。しばらくお待ちください。



```
Copyright (C) 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.  
Version 2.16.1243. Copyright (C) 2013 American Megatrends, Inc.  
BIOS Date: 03/14/2014 16:37:20 Ver: 30016900  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on serial keyboard)  
Press F8 for BBS Popup (CTRL+P on serial keyboard)  
Press F12 for network boot (CTRL+N on serial keyboard)  
Press F9 to start Oracle System Assistant (CTRL+O on serial keyboard)
```

注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

2. **BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。**
しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。
3. **BIOS 設定ユーティリティで、矢印キーを使用して「Boot」メニューに移動します。**
「Boot」メニュー画面が表示されます。



注記 - ブート順序リスト内のオプションは、ストレージドライブ構成や、永続ブートサポート機能を有効にしているかどうかによって異なります。永続ブートサポートの詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

4. 下矢印キーを使用して「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、Enter キーを押します。
5. 優先使用するブートモードを選択し、Enter キーを押します。
6. 変更を保存して BIOS を終了するには、F10 キーを押します。

注記 - オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) を選択する必要があります。

RAID の構成

RAID 構成でサーバストレージドライブを構成する場合は、Windows OS をインストールする前に、サーバーで RAID を構成してください。RAID の構成手順については、『Oracle Server X5-2L 設置ガイド』の「OS インストール用のサーバードライブの構成」を参照してください。

関連情報

- 『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

Windows Server オペレーティングシステムのインストール

このセクションでは、サーバーに Microsoft Windows Server オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。

説明	リンク
インストール前の要件。	33 ページの「準備作業」
Oracle System Assistant を使用した Windows オペレーティングシステムのインストール。	34 ページの「Oracle System Assistant を使用した Windows Server の単一システムへのインストール」
メディアを使用した Windows オペレーティングシステムのインストール。	38 ページの「Windows Server の単一システムへの手動でのインストール」

関連情報

- [25 ページの「ブート環境の準備」](#)
- [31 ページの「RAID の構成」](#)

準備作業

次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーのストレージドライブで RAID (Redundant Array of Independent Disks) を構成する場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に行う必要があります。RAID の構成手順については、『[Oracle Server X5-2L 設置ガイド](#)』の「[OS インストール用のサーバードライブの構成](#)」を参照してください。

注記 - Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA を使用してストレージドライブを管理する場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に RAID ボリュームを作成してそれをブート可能にする必要があります。そうしないと、HBA がサーバーのストレージドライブを特定できなくなります。

- UEFI ファームウェアの設定が最適なデフォルト値に設定されていることを確認します。UEFI ファームウェアの設定を確認し、必要に応じてそれを設定する方法については、26 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」を参照してください。
- UEFI ファームウェアを目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) に設定します。UEFI ブートモードを設定する方法については、28 ページの「ブートモードを設定する」を参照してください。
- インストールの実行前に、コンソール表示オプションが選択および設定されていること。このオプションおよび設定手順の詳細は、on page 12「コンソール表示オプションの選択」を参照してください。
- インストールの実行前に、ブートメディアオプションが選択および設定されていること。このオプションおよび設定手順の詳細は、on page 14「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。
- インストールの実行前に、インストール先オプションとして使用されるストレージドライブが選択および設定されていること。このオプションおよび設定手順の詳細は、on page 19「インストール先オプションの選択」を参照してください。
- Microsoft Windows Server 2012 または Windows Server 2012 R2 オペレーティングシステムのドキュメントを収集して、それをこのセクションに示されている Windows Server オペレーティングシステムに関する説明とともに使用してください。Microsoft Windows Server 2012 および 2012 R2 のインストールドキュメントは、<http://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/default.aspx> で入手できます。

Oracle System Assistant を使用した Windows Server の単一システムへのインストール

Oracle System Assistant アプリケーションの「Install OS」タスクは、サーバーにサポートされている Microsoft Windows Server OS をインストールするための推奨される方法です。

- 34 ページの「Oracle System Assistant を使用して Windows Server を単一システムにインストールする」

▼ Oracle System Assistant を使用して Windows Server を単一システムにインストールする

- 始める前に
- 25 ページの「Windows Server オペレーティングシステムのインストール準備」にある手順を実行します。
 - ブートドライブ (Windows Server OS のインストール先ストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、OS をインストールする前にそれを実行する必要があります。

ります。サーバーで RAID を構成する方法については、『Oracle Server X5-2L 設置ガイド』の「OS インストール用のサーバードライブの構成」を参照してください。

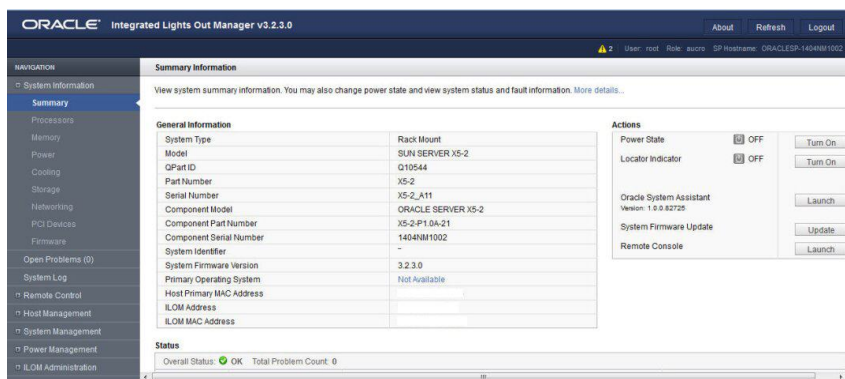
1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。
 - 配布 CD/DVD の場合は、Windows Server の配布メディア (番号 1 が付いた CD、または単一の DVD) をローカルまたは外付け USB CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
 - ISO イメージの場合は、ISO イメージが使用可能であり、その ISO イメージが Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションによってマウントされていることを確認します。

インストールメディアを設定する方法の詳細は、on page 14“ブートメディアオプションの選択”を参照してください。

2. Oracle System Assistant を Oracle ILOM Web インタフェースから直接起動する (推奨) には、次の手順を実行します。それ以外の場合は、ステップ 3 に進みます。

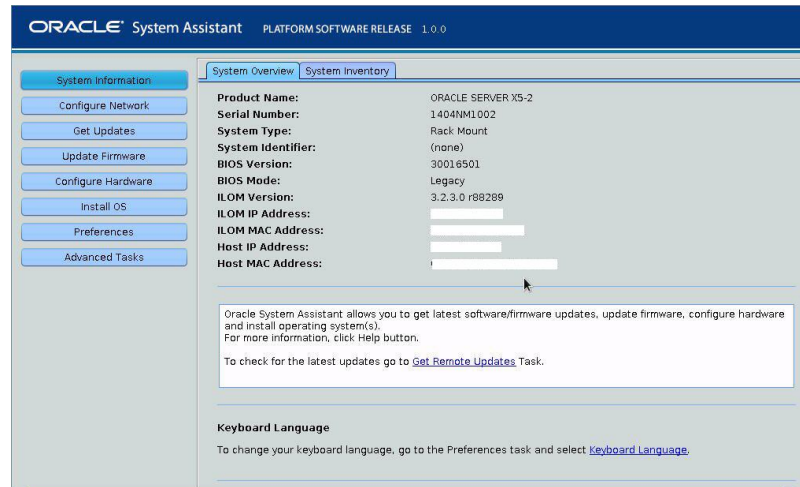
- a. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。

Oracle ILOM の「Summary Information」ページが表示されます。



- b. Oracle ILOM の「Summary Information」ページの「Actions」パネルで、「Oracle System Assistant Launch」ボタンをクリックします。

「Oracle System Assistant System Overview」画面が表示されます。



c. **ステップ 4**に進みます。

3. リモートコンソールと BIOS を使用して Oracle System Assistant を起動するには、次の手順を実行します。

a. Oracle ILOM の「Summary Information」ページから、「Remote Console Launch」ボタンをクリックします。

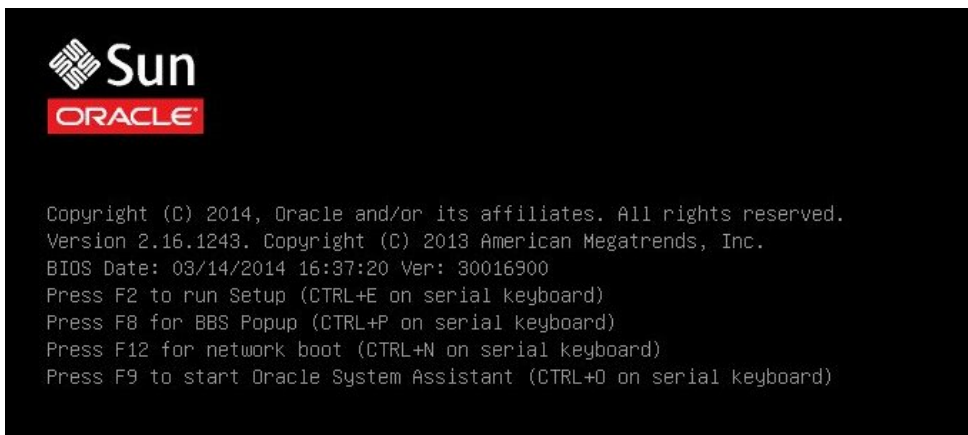
「Oracle ILOM Remote System Console Plus」ウィンドウが表示されます。

b. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- ローカルサーバーで、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切った後、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- Oracle ILOM CLI から、「reset /System」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が Oracle ILOM リモートシステム コンソール プラス アプリケーションに表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

c. F9 キーを押します。

「Oracle System Assistant System Overview」画面が表示されます。

4. Oracle System Assistant を最新のソフトウェアリリースバージョンに更新するには、Oracle System Assistant の「Get Updates」ボタンをクリックします。

このアクションにより、OS のインストールを開始する前に、サーバーに最新のソフトウェアリリースパッケージが確実にインストールされます。

注記 - Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。

5. サーバーのファームウェアを更新するには、「Update Firmware」ボタンをクリックします。

このアクションにより、OS のインストールを開始する前に、サーバーのファームウェアおよび BIOS が確実に最新のものになります。

6. Windows Server OS をインストールするには、「Install OS」ボタンをクリックします。

「Install Operating System」画面が表示されます。

7. 「Supported OS」 ドロップダウンリストから、**Windows Server OS** を選択します。
8. 画面の「Current BIOS mode」部分で、OS のインストールに使用する BIOS モード (UEFI またはレガシー BIOS) を選択します。
9. 画面の「Select Your Install Media Location」部分で、インストールメディアの場所を選択します。
これは OS 配布メディアの場所です。オプションは「CD/DVD」と「Network」です。

注記 - Oracle System Assistant は、PXE (Preboot eXecution Environment) インストールをサポートしません。

10. 「Installation Details」をクリックします。
「Installation Details」ダイアログが表示されます。
11. 「Installation Details」ダイアログで、インストールしない項目をすべて選択解除し、「OK」をクリックします。

注記 - 「Installation Details」ダイアログで、「Install Microsoft Windows Server」および「Use Oracle recommended Drivers」オプションは必須であり、選択解除できません。

12. 「Operating System Installation」画面の最下部にある「OS Install」ボタンをクリックします。
13. プロンプトに従ってインストールを完了します。
サーバーがブートします。

Windows Server の単一システムへの手動でのインストール

このセクションでは、Windows Server 2012 および 2012 R2 (64 ビット) オペレーティングシステムをインストールする手順について説明します。

- [39 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 を手動でインストールする」](#)
- [58 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする」](#)

▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 を手動でインストールする

この手順では、Microsoft Windows Server 2012 または 2012 R2 オペレーティングシステムをローカルまたはリモートメディアからブートする方法について説明します。次のいずれかのソースから Windows インストールメディアをブートすることを前提としています。

- Windows Server 2012 または 2012 R2 の CD または DVD
- Windows Server 2012 または 2012 R2 の ISO イメージ

注記 - Windows Server 2012 または 2012 R2 の ISO イメージは、リモートインストールやインストール CD または DVD の作成に使用できます。

注記 - PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、58 ページの「[PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする](#)」で手順を確認してください。

1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。

- **Distribution CD/DVD の場合は**、Windows 2012 または 2012 R2 の配布メディア (番号 1 が付いた CD、または単一の DVD) をローカルまたはリモートの CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
- **ISO イメージの場合は**、Windows 2012 または 2012 R2 の ISO イメージが使用可能であり、その ISO イメージが Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションで「KVMS」メニューを使用してマウントされていることを確認します。

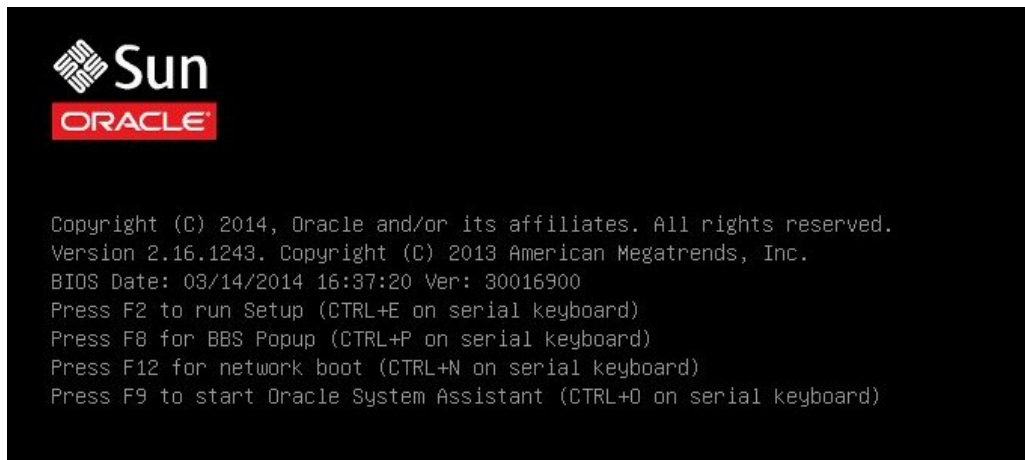
インストールメディアを設定する方法の詳細は、[on page 14](#)「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。

2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI から**、「reset /system」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

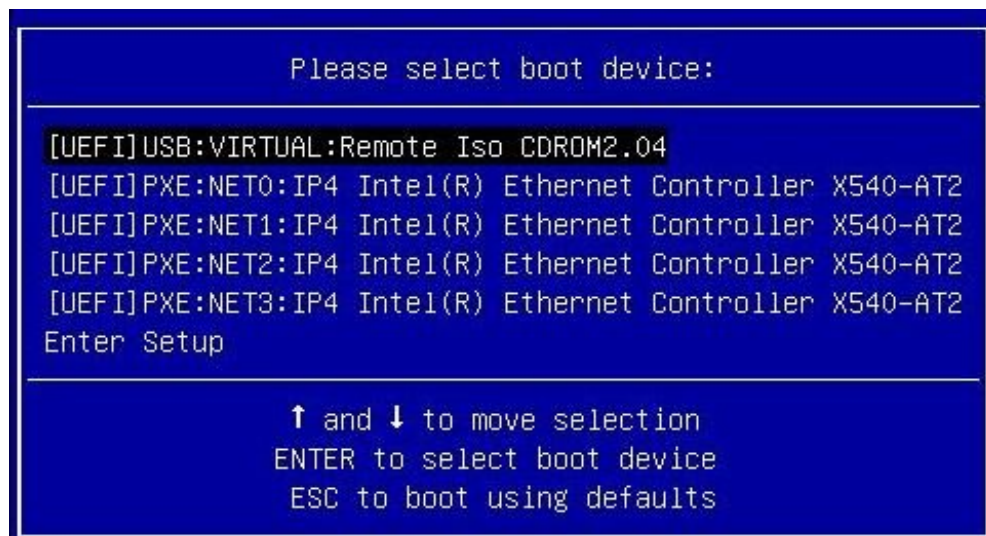


注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. **BIOS 画面で F8 キーを押して、Windows OS のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。**
 - 「[Boot Pop Up Menu Selected]」が BIOS 画面の最下部に表示されてから、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、UEFI/BIOS ブートモードがレガシー BIOS または UEFI のどちらに構成されているかによって異なります。
 - レガシー BIOS モードの場合は、次のような画面が表示されます。



- UEFI モードの場合は、次のような画面が表示されます。



注記 - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラや PCIe ネットワークカードなどのその他のハードウェアのタイプによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用することを選択した Windows メディアのインストール方法と UEFI/BIOS ブートモードに応じたメニュー項目を選択し、Enter キーを押します。
たとえば、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションの提供方法を使用することを選択した場合は、「Legacy BIOS Boot Mode」画面から「USB:VIRTUAL: Remote Iso CDR0M2.04」を、または「UEFI Boot Mode」画面から「[UEFI]USB:VIRTUAL: Remote Iso CDR0M2.04」を選択します。
5. 「Press any key to boot from CD」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーを押します。

Windows インストールウィザードが開始し、「Loading files」画面が表示されます。



Windows インストールウィザードが進み、言語ローカリゼーションのダイアログが表示されます。



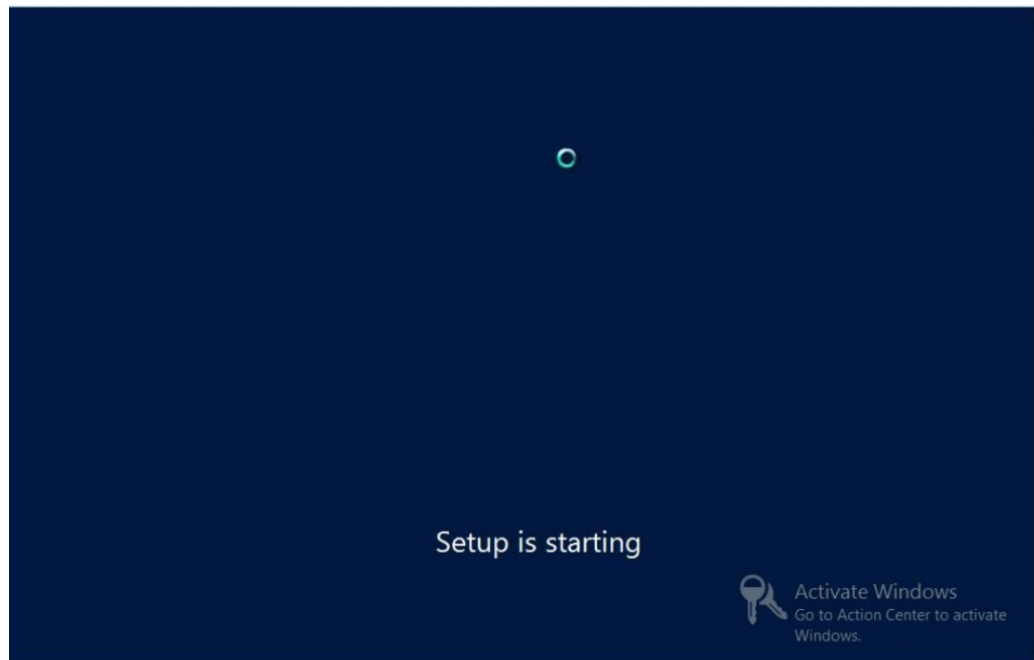
6. 言語やその他の設定を選択し、「次へ」をクリックして続行します。
「今すぐインストール」画面が表示されます。

注記 - 「今すぐインストール」画面では、インストールを続行するほか、オプションの修復メニュー (画面の左下を参照) にアクセスしてトラブルシューティングを行うことも可能です。

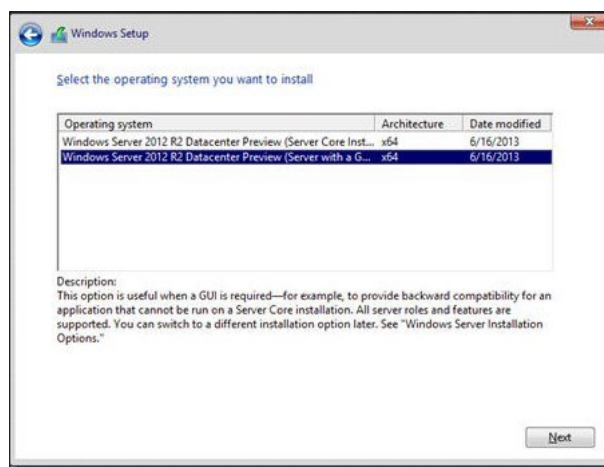


7. 「今すぐインストール」をクリックします。

「セットアップを始めています」画面が表示されます。



次に、オペレーティングシステム選択のダイアログが表示されます。

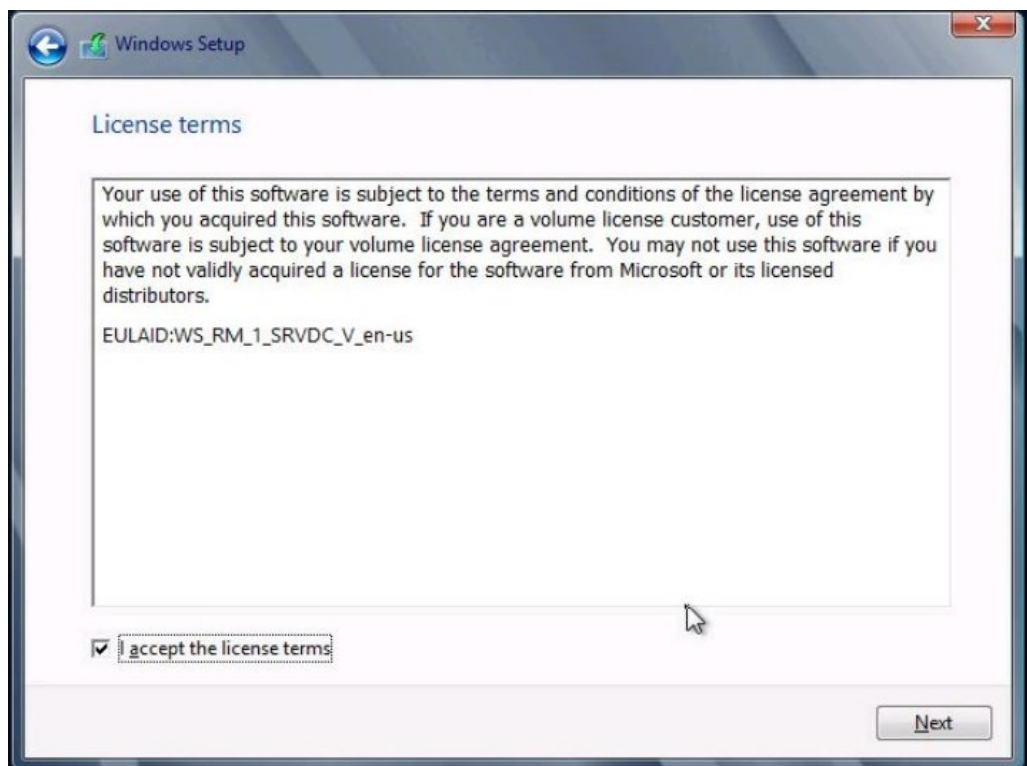


- オペレーティングシステム選択のダイアログで目的のオペレーティングシステムを選択し、「次へ」をクリックして続行します。

通常のインストールでは、リストの最下部にある「Windows Server 2012 (または 2012 R2) Datacenter (GUI 使用サーバー)」を選択します。

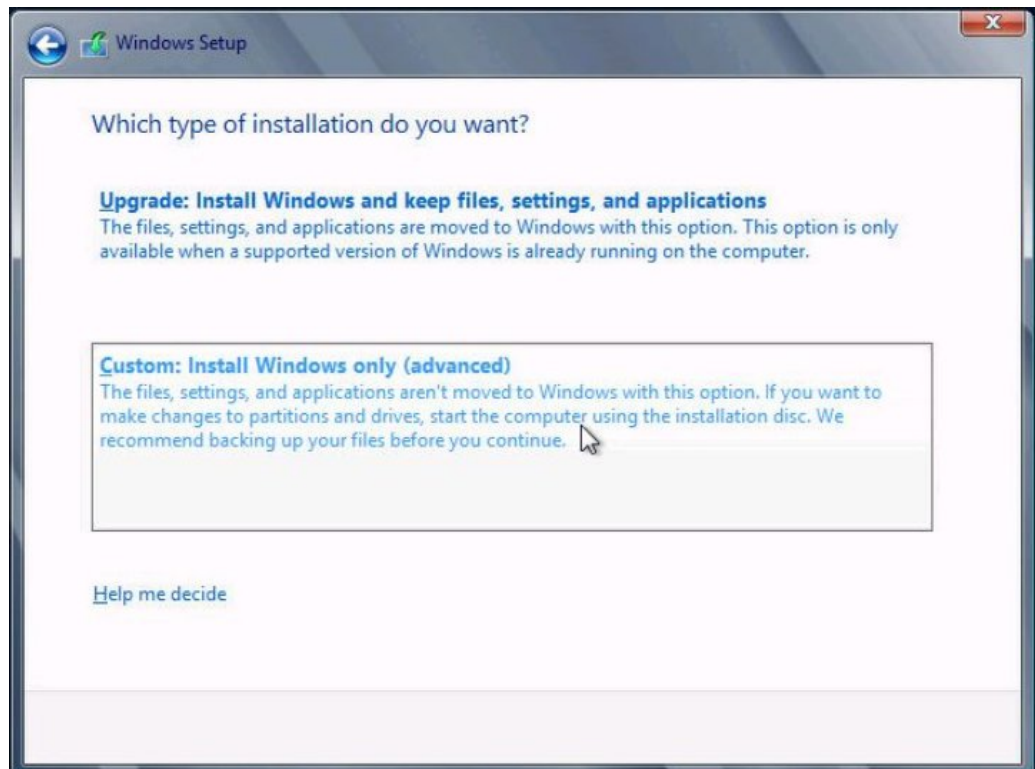
Windows オペレーティングシステムのさまざまなタイプの詳細は、Windows Server 2012 または 2012 R2 のドキュメント (<http://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/default.aspx>) を参照してください。

「ライセンス条項」画面が表示されます。



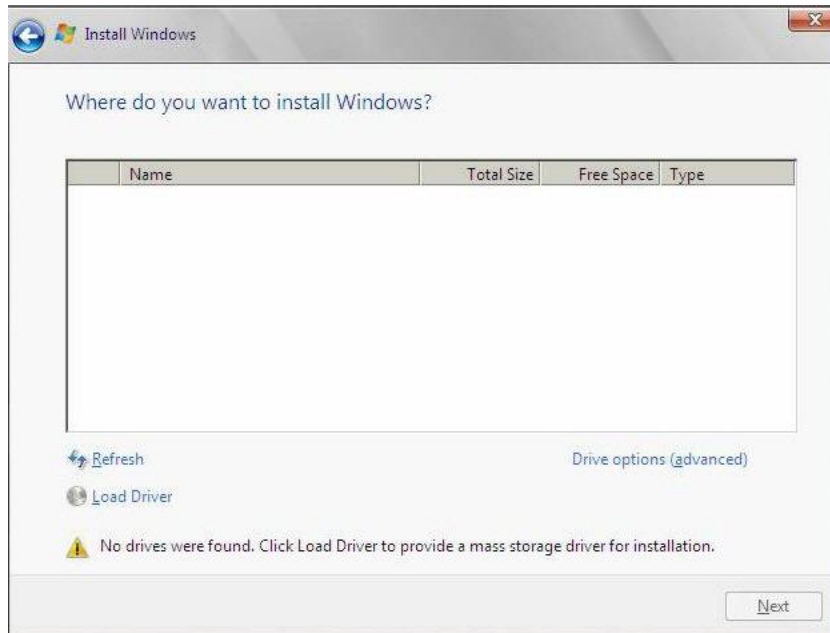
- 「ライセンス条項」画面で、「条項に同意します」チェックボックスを選択し、「次へ」をクリックして続行します。

「インストールの種類を選んでください」ダイアログが表示されます。



10. 新規インストールでは、「インストールの種類を選んでください」ダイアログで「カスタム: Windows のみをインストールする (詳細設定)」をクリックします

「Windows のインストール場所を選んでください」ダイアログが表示されます。



11. 「Windows のインストール場所を選んでください」ダイアログで、次のいずれかのタスクを実行します。

- (このタスクは、Windows Server 2012 インストールのみに適用されます) どのストレージ先も一覧表示されず、かつサーバー上で Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe 外部 HBA カードが構成されている場合は、「ドライバの読み込み」をクリックして「ドライバの読み込み」ダイアログを表示してから、[ステップ 12](#)に進みます。
- オペレーティングシステムをインストールするストレージ先が表示されるが、そのストレージ先に関連付けられたデフォルトのパーティション設定を変更する場合は、ストレージ先を選択し、「ドライブオプション (詳細)」をクリックしてから、[ステップ 13](#)に進みます。
- オペレーティングシステムをインストールするストレージ先が表示され、そのストレージ先のデフォルトのパーティション設定を変更しない場合は、ストレージ先を選択し、「次へ」をクリックしてから、[ステップ 14](#)に進みます。

12. 「ドライバの読み込み」ダイアログで、次の手順を実行します。



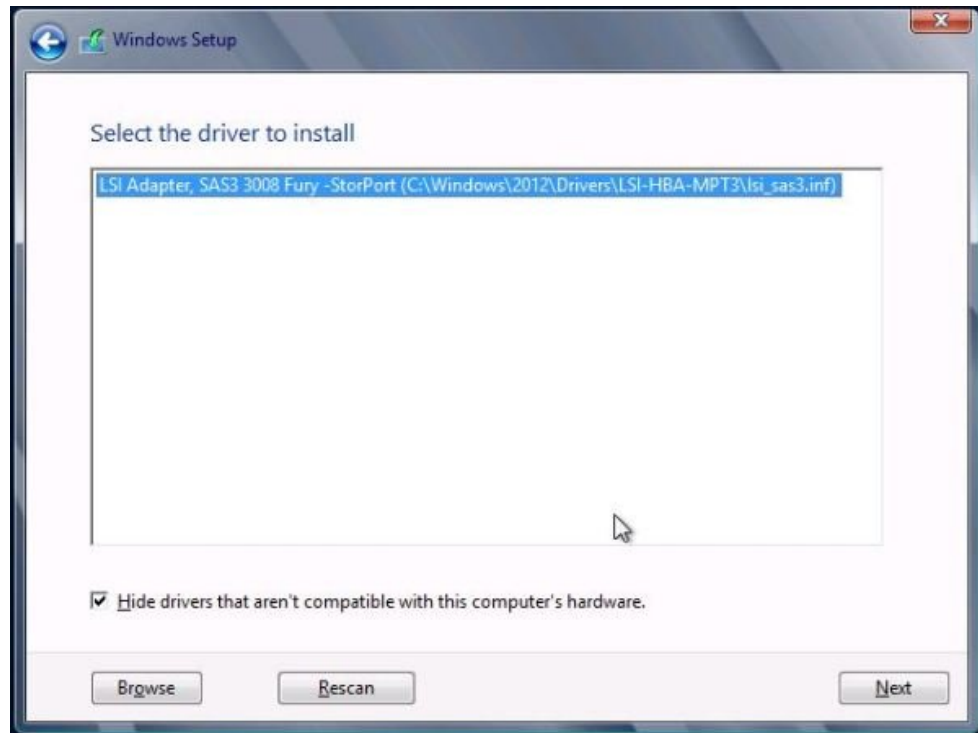
- a. 選択されたインストール方法に応じてドライバにアクセスできることを確認します ([on page 14](#) “ブートメディアオプションの選択”を参照)。

例:

- ストレージドライバは、リモートコンソールからデバイスとしてマウントされたディスク上に存在します。
 - ストレージドライバは、サーバーのシャーシの内部にマウントされた Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (取り付けられている場合) などのローカル物理ストレージメディア、CD/DVD、またはリモートコンソールからマウントされた仮想メディア上に存在します。
- b. 「ドライバの読み込み」ダイアログで「参照」をクリックして、次に説明されている適切なドライバメディアフォルダに移動します。
- Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe 外部 HBA オプションを使用して構成されているシステムの場合は、内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ上の Windows/2012/Drivers/LSI-HBA-MPT3 ディレクトリに移動して、適切なドライバをロードします。
- c. 「フォルダを参照する」ダイアログで、適切なドライバを選択し、「OK」をクリックしてドライバをロードします。

選択されたドライバが、「インストールするドライバを選択してください」ダイアログに表示されます。

例:



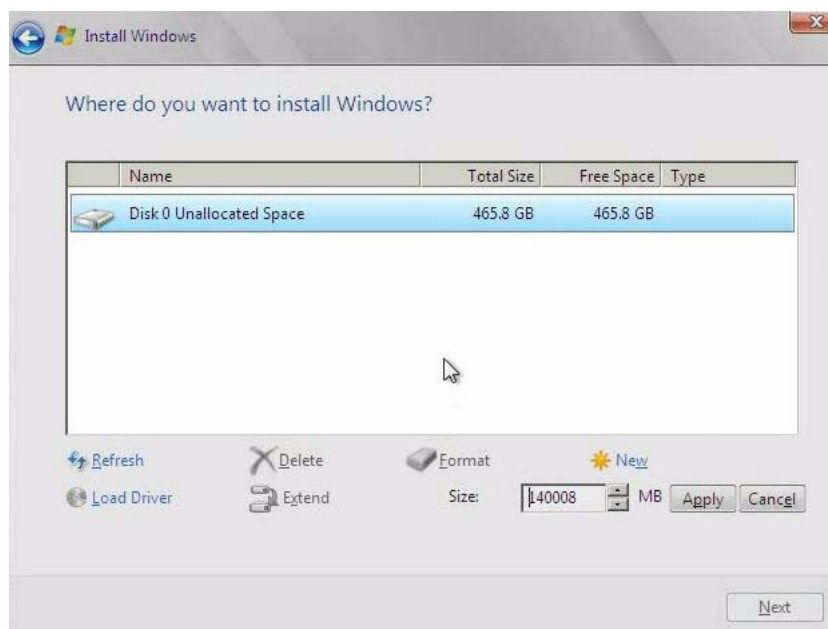
- d. 「インストールするドライバを選択してください」ダイアログで、「次へ」をクリックしてドライバをインストールします。

「Windows のインストール場所を選んでください」ダイアログが表示されます。

注記 - 以前に、内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブからドライバをロードするために Windows Server のインストールメディアを取り外すか、またはアンマウントした場合は、「このディスクに Windows をインストールすることはできません」というメッセージが表示されることがあります。このメッセージが表示された場合は、Windows のインストールメディアを挿入または再マウントしてから、「更新」をクリックしてください。

- e. 「Windows のインストール場所を選んでください」ダイアログで、次のいずれかを実行します。

- 一覧表示されているストレージ先を選択し、「次へ」をクリックしてオペレーティングシステムをインストールしてから、[ステップ 14](#)に進みます。
 - ターゲットディスクにいずれかのパーティションが存在する場合は、セットアッププロセスで適切なパーティションを作成できるようにすることをお勧めします。既存のパーティションを削除するには、[ステップ 13](#)に進みます。
13. (パーティションドライブ、詳細) 「Windows のインストール場所を選んでください」ダイアログの下部で、次の手順を実行します。



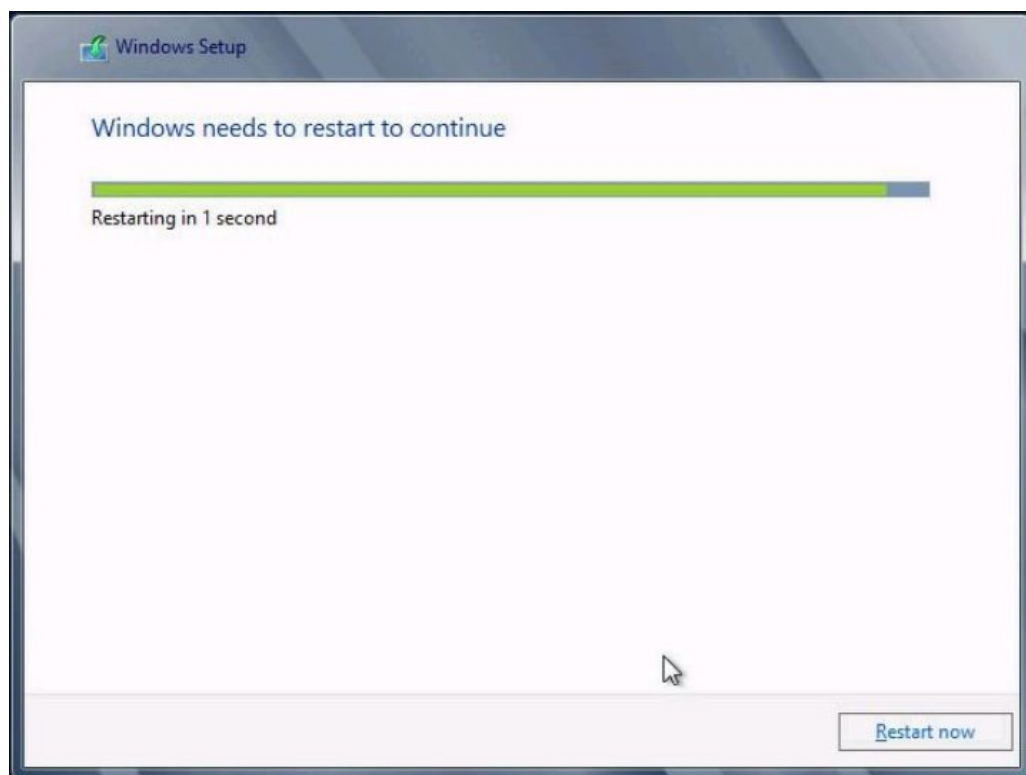
- a. 「削除」をクリックして、選択されたストレージ先が存在するパーティション構成を削除します。
確認ウィンドウが表示されます。
 - b. 「OK」をクリックして、パーティションの削除を確認します。
 - c. ターゲットディスクに追加のパーティションが存在する場合は、手順 a と手順 b を繰り返します。
14. Windows をインストールするディスクを選択 (強調表示) し、「次へ」をクリックします。

「Windows をインストールしています」画面が表示されます。



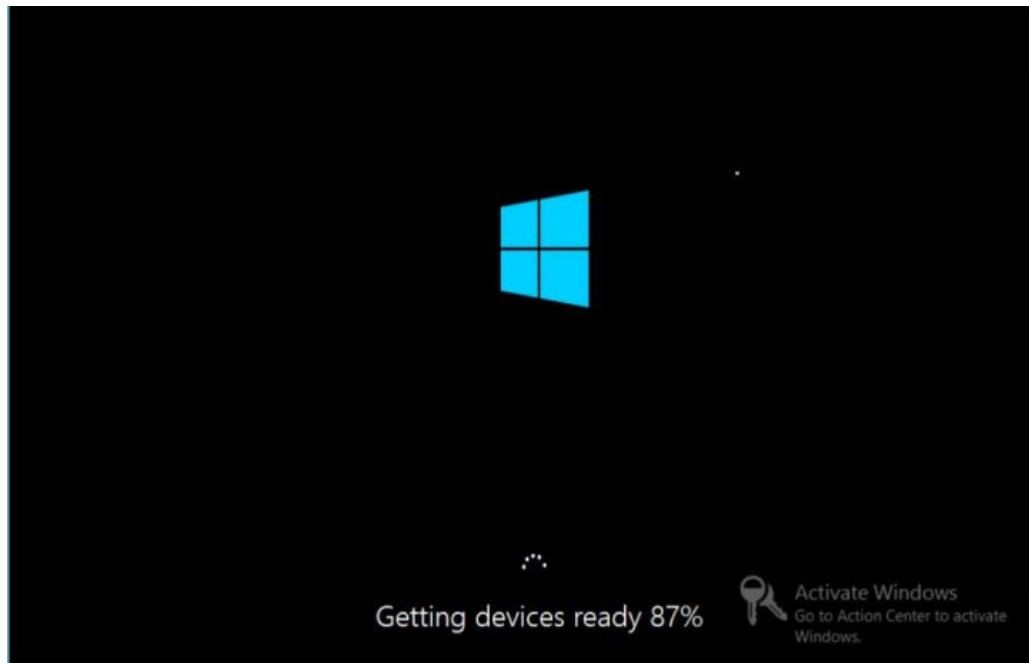
セットアップとインストールのプロセスが開始し、ファイルが宛先にコピーされます。

「続けるには、Windows を再起動する必要があります」画面が表示されます。

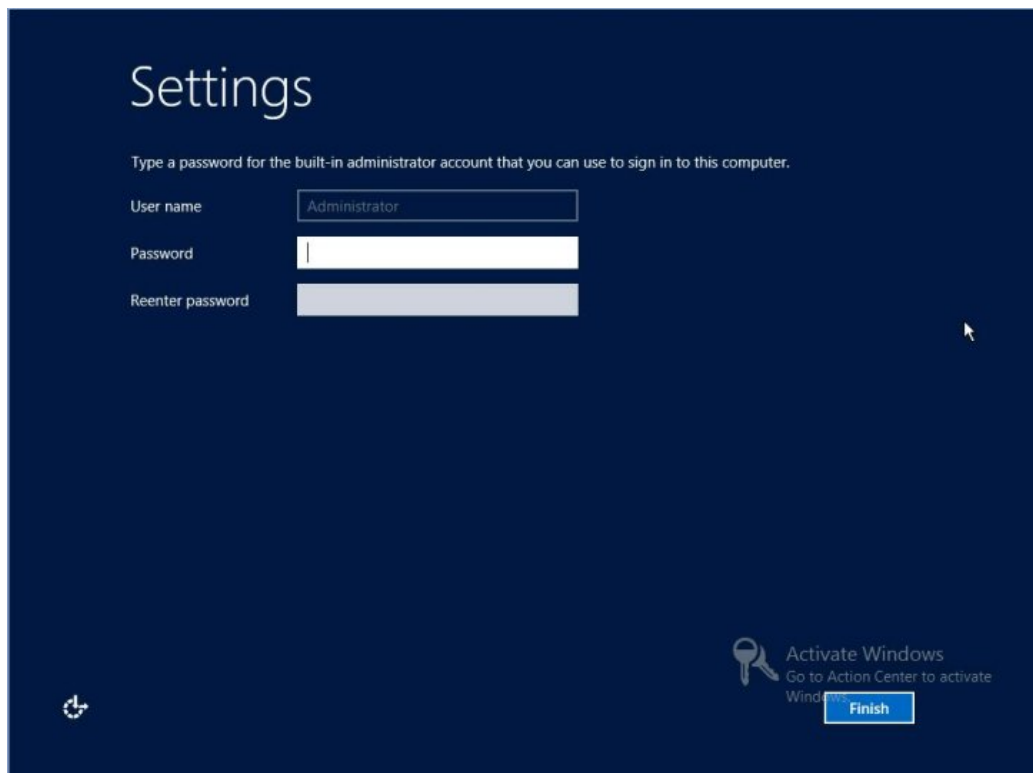


システムがリブートします。

15. システムがリブートしたあと、「デバイスの準備中」画面が表示され、Windows インストールウィザードがデバイス設定を構成するまで待ちます。

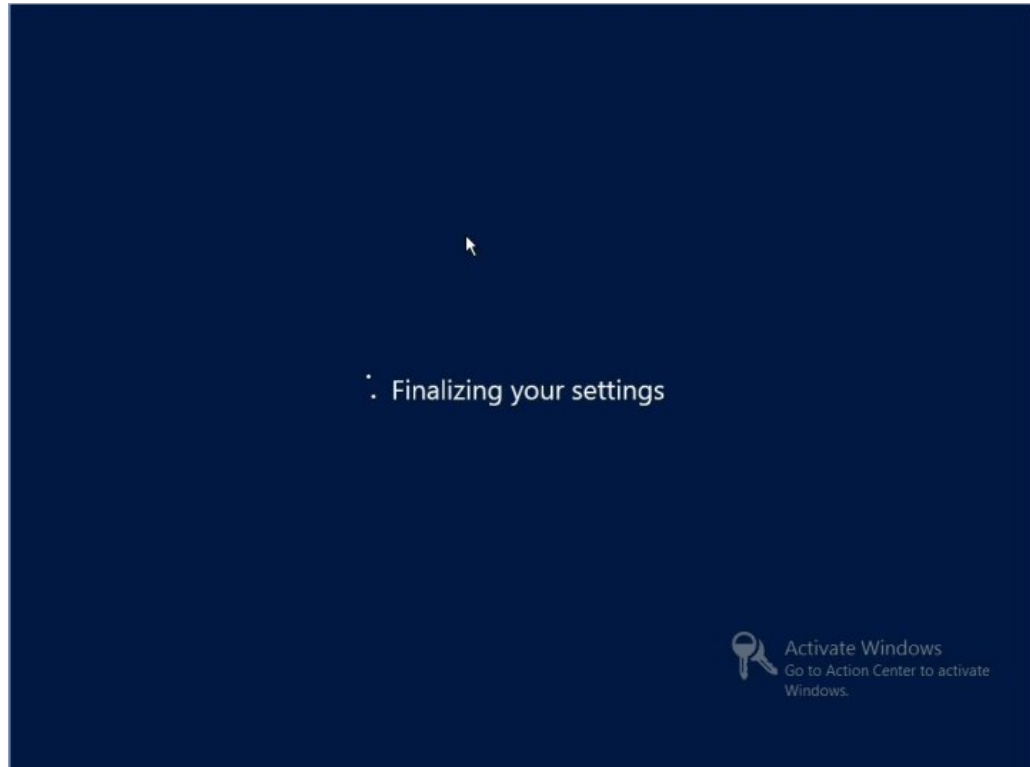


デバイスが構成されたあと、システムがふたたびリブートし、「設定」画面が表示されます。



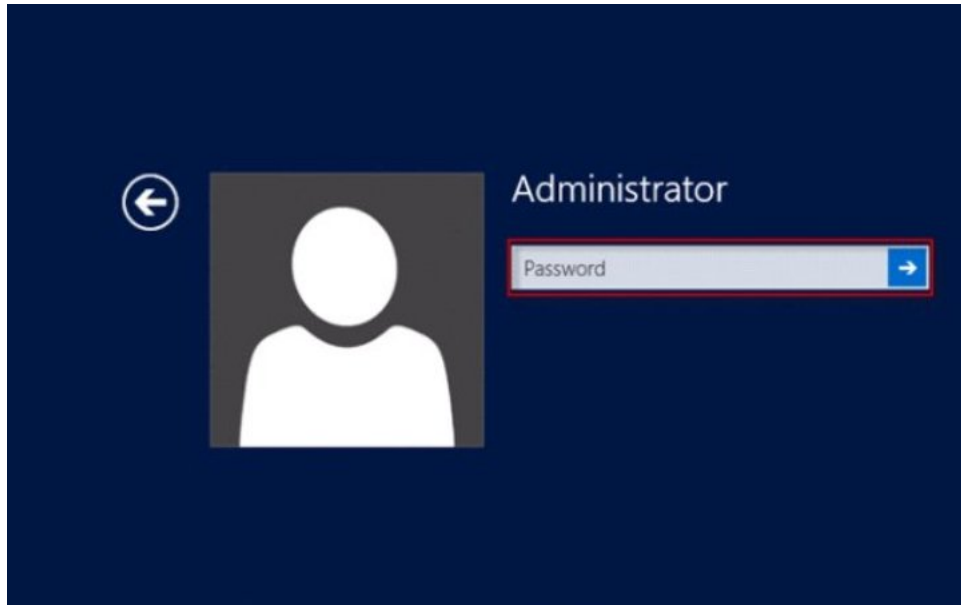
16. 管理者ユーザー名とパスワードを入力し、「完了」をクリックします。
「もう少しで完了します」画面が表示されます。

この画面は、Windows OS がインストールされたことを示しています。



17. インストールが完了したら、**Ctrl+Alt+Delete** を押してログインします。

管理者のログイン画面が表示されます。



18. 管理者のパスワードを入力し、矢印をクリックしてログインします。
Windows Server のデスクトップが表示されます。
これでインストールが完了します。
19. [on page 65“Windows Server のインストール後のタスク”](#)に進み、インストール後のタスクを実行します。

▼ PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする

このセクションでは、お客様提供の Windows Imaging Format (WIM) イメージを使用して、確立された PXE ベースのネットワーク経由で Windows Server 2012 または 2012 R2 オペレーティングシステムをインストールするために必要な初期情報について説明するとともに、従う必要のある手順を示します。

このセクションで説明する手順は、Windows 展開サービス (WDS) を使用してネットワーク経由で Windows Server をインストールするための最初の手順です。具体的には、WDS インストールサーバーと通信するサーバー PXE ネットワークインターフェー

スカードを選択する手順について説明します。WDS を使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 をインストールする方法の詳細は、Windows 展開サービスに関する Microsoft のドキュメントを参照してください。

始める前に PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作が必要です。

- インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、TFTP、DHCP) サーバーを構成します。

注記 - ローカルネットワークに必要な DHCP サーバーは 1 つだけであるため、DHCP サーバーの構成が不要な場合もあります。

- PXE のブートに必要なファイルを TFTP サーバー上に構成します。
- PXE 構成からブートするように、サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
- 動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を構成します。

WDS を使用してインストールを実行するには、次の操作が必要です:

- 必要なシステムデバイスドライバを `install.wim` イメージ、および必要に応じて `boot.wim` イメージに追加します。

WIM インストールイメージにドライバを追加する手順については、Microsoft Windows 展開サービスのドキュメントを参照してください。

- WIM の管理者パスワードを取得します。

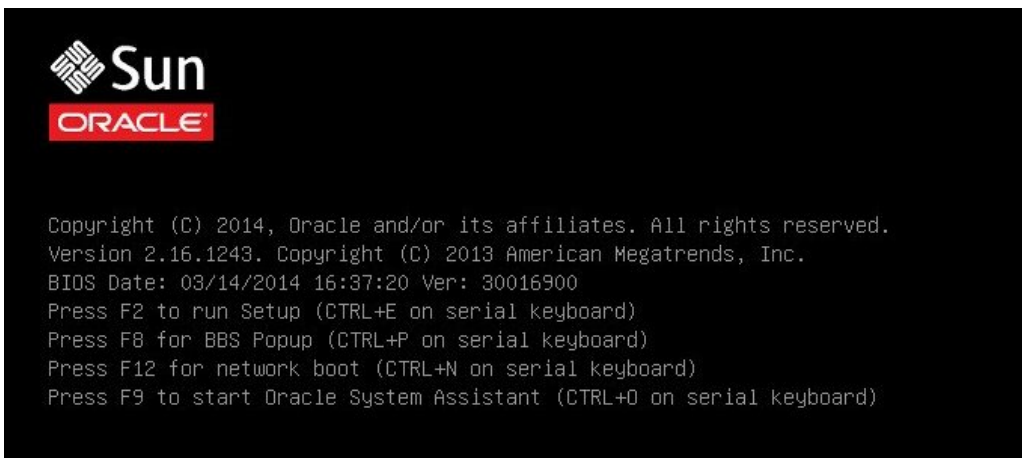
1. **PXE ネットワーク環境が正しく設定され、Windows インストールメディアを PXE ブートで使用できることを確認します。**

2. **サーバーをリセットします。**

たとえば、サーバーをリセットするには:

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから 「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI から**、`reset /System` と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションに表示されます。



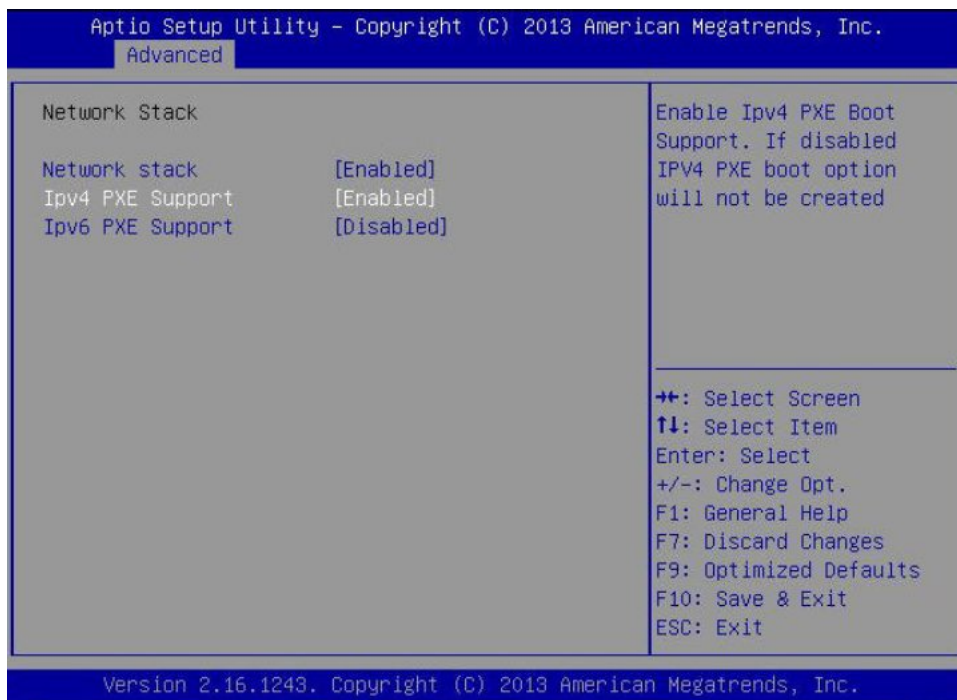
注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. PXE ブートが有効になっていることを確認するために、次の手順を実行します。

注記 - PXE ブートはデフォルトで有効になっていますが、この手順では無効になっている場合に備えて、PXE ブートが有効になっていることを確認します。PXE ブートが有効になっていることを確認したら、以降の PXE ブートではこの手順を省略できます。

- a. **F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。**
BIOS 設定ユーティリティーが表示されます。
- b. **上部のメニューバーで「Advanced」を選択します。**
BIOS 設定ユーティリティーの「Advanced」画面が表示されます。
- c. **使用可能なオプションのリストから「Network Stack」を選択します。**

BIOS 設定ユーティリティーの「Network Stack」画面が表示されます。



- d. 必要に応じて、適切な「PXE Support」設定 (IPv4 または IPv6 のどちらか) を「Enabled」に設定します。
- e. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、F10 キーを押します。

これにより、サーバーがリセットされます。リセット後、再度、BIOS 画面が表示されます。

4. BIOS 画面で、F8 キーを押して一時ブートデバイスを指定するか、または F12 キーを押してネットワークブート (PXE) を指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能なブートデバイスが一覧表示されます。表示される画面は、BIOS がレガシー BIOS ブートモードまたは UEFI ブートモードのどちらに構成されているかによって異なります。

- レガシー BIOS の場合は、次のような画面が表示されます。



- UEFI の場合は、次のような画面が表示されます。



注記 - インストール時に表示されるブートデバイスメニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプによって異なる場合があります。

5. 「Please Select Boot Device」メニューで、PXE ネットワークインストールサーバーと通信するように構成されたネットワークポートを選択します。
ネットワークブートローダーがロードされ、ブートプロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルのロードが開始されます。
6. インストールを完了するには、[39 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 または 2012 R2 を手動でインストールする」](#)の [ステップ 5](#) を参照してください。

Windows Server のインストール後のタスク

Note - このセクションの手順では、手動での手順を使用して、つまり Oracle System Assistant を使用せずに Microsoft Windows Server オペレーティングシステムをインストールしていることを前提としています。Oracle System Assistant を使用してオペレーティングシステムをインストールした場合は、Oracle System Assistant が代わりにこれらのインストール後のタスクを実行しているため、このセクションはスキップできません。

Windows Server 2012 または 2012 R2 の手動インストールを完了してサーバーをリブートしたら、次のインストール後のタスクを確認し、必要に応じて、使用しているサーバーに該当するタスクを実行するようにしてください。

説明	リンク
追加ソフトウェアについて。	“追加ソフトウェアコンポーネントオプション” on page 65
デバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールします。	“デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール” on page 66
NIC チューニングを構成します。	“Intel NIC チューニングの構成” on page 68

追加ソフトウェアコンポーネントオプション

Oracle System Assistant は、複数の追加ソフトウェアコンポーネントをサーバーで使用できるようにします。インストールには次の 2 つのオプションがあります。

- **Typical** – サーバーに適用可能なすべての追加ソフトウェアをインストールします。
- **Custom** – インストール用に選択された追加ソフトウェアのみをインストールします。

次の表に、Oracle System Assistant によってサーバーで使用可能になるオプションの追加ソフトウェアコンポーネントを示します。

TABLE 2 オプションの追加ソフトウェア

使用可能な追加ソフトウェアコンポーネント	統合 RAID コントローラ
<p>Windows Server 用の Emulex OneInstall</p> <p>Emulex OneInstall は、すべての Emulex ドライバ (FC、FCoE、NIC、iSCSI、および Command Manager) を、ウィザードを使用してインストールします。</p>	通常
<p>Oracle Hardware Management Pack</p> <p>Oracle Hardware Management Pack は、サーバーを管理および構成する際に役立つツールを備えています。次のことが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ オペレーティングシステムレベルで管理エージェントを使用すると、Simple Network Management Protocol (SNMP) を介したサーバーハードウェアの帯域内モニタリングが可能になります。この情報を使用して、サーバーをデータセンター管理インフラストラクチャーに統合できます。 ■ 管理エージェントを使用すると、RAID アレイを含むサーバーのストレージデバイスの帯域内モニタリングが可能になります。この情報は、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) の Web インタフェースまたはコマンド行インタフェース (CLI) から表示できます。 ■ ホストのオペレーティングシステムで動作し、ホストの BIOS CMOS 設定、ホストのブート順序、および一部のサービスプロセッサ (SP) 設定を構成する、BIOS 構成ツールを使用します。 ■ IPMITool を使用して、IPMI プロトコルを介してサーバーのサービスプロセッサにアクセスし、管理タスクを実行します。 	通常
<p>Windows 用 Intel ネットワーク接続 PROSet</p> <p>NIC チューニングを含む追加のネットワーク機能を有効にします。</p>	通常
<p>LSI MegaRAID StorCLI</p> <p>SAS 3 内蔵 RAID ホストバスアダプタ (HBA) で RAID を構成、モニター、および保守できるようにします。</p>	通常
<p>LSI MegaRAID Storage Manager for Windows</p> <p>SAS 3 内蔵 RAID ホストバスアダプタ (HBA) で RAID を構成、モニター、および保守できるようにします。</p>	通常
<p>Intel チップセットソフトウェアインストールユーティリティ</p> <p>チップセット INF ファイルの更新が必要になると自動的にユーザーに通知し、これらのファイルをインストールするように要求します。</p>	通常

デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール

InstallPack アプリケーションには、プラットフォーム固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールするためのインストールウィザードが用意されています。このアプリケーションは Oracle System Assistant に含まれており、My Oracle Support からダウンロードすることもできます。ダウンロード手順については、[Oracle Server X5-2L 設置ガイド](#) の“サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手”を参照してください。

サーバーが Oracle System Assistant を備えており、それを使用してオペレーティングシステムをインストールした場合、必要なプラットフォーム固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアは自動的にインストールされます。しかし、サーバーが Oracle

System Assistant を備えていない場合は、OS (オペレーティングシステム) パックに含まれている InstallPack を使用して、プラットフォーム固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールできます。OS パックの入手については、[Oracle Server X5-2L 設置ガイド](#)の“サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手”を参照してください。

次の手順で、InstallPack を使用して、デバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

- “サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする” on page 67

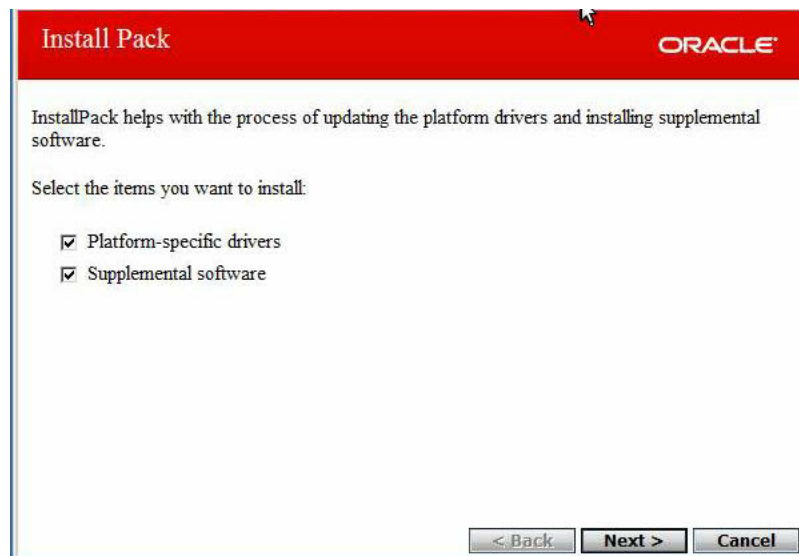
関連情報

- “追加ソフトウェアコンポーネントオプション” on page 65

▼ サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする

1. インストールパックウィザードの実行可能ファイル `InstallPack.hta` をクリックします。

「Install Pack」ダイアログが表示されます。



2. 「Install Pack」ダイアログで、「Next」をクリックして、デフォルトのインストール可能な項目を受け入れます。

Note - 最新バージョンのドライバが確実にインストールされるようにするために、「デフォルトのインストール可能な項目」を常に受け入れるようにしてください。

インストールパックの注意ダイアログが表示されます。

3. 画面に表示されるプロンプトに従い、デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストールを完了します。

Intel NIC チーミングの構成

環境に合わせて Intel NIC チーミングを設定する方法の詳細は、Advanced Networking Services Teaming に関する次の Intel 接続 Web ページを参照してください。

<http://www.intel.com/support/network/sb/CS-009747.htm>

また、使用しているサーバーのネットワークアダプタ用に、Intel のネットワーク接続のユーザーガイド一式を次からダウンロードできます。

<http://www.intel.com/support/network/sb/cs-009715.htm>

索引

あ

- インストール
 - Oracle Enterprise Manager Ops Center
 - Windows OS, 20
 - Oracle System Assistant
 - Windows OS, 22
 - Oracle System Assistant の使用
 - Windows OS, 34
 - PXE ネットワークブートの使用
 - Windows OS, 58
 - インストールの種類を選択
 - Windows OS, 47
 - オプション
 - Windows OS, 20
 - 言語の選択
 - Windows OS, 44
 - 手動
 - Windows OS, 22
 - タスクマップ
 - Windows OS, 9
 - 単一サーバー
 - Windows OS, 20, 21
 - 特定のオペレーティングシステムの選択
 - Windows OS, 44
 - メディアの使用
 - Windows OS, 38
 - ローカルまたはリモートメディアの使用, 39
- インストール後
 - Intel NIC チーミングの構成
 - Windows OS, 68
- インストール後の
 - タスクの概要
 - Windows OS, 65
 - 追加ソフトウェアのインストール
 - Windows OS, 65, 66
 - デバイスドライバのインストール

- Windows OS, 66
- インストール先
 - オプション, 19
 - ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイスの設定
 - Windows OS, 20
 - ローカルストレージドライブの設定
 - Windows OS, 19
- インストール先オプション
 - 選択
 - Windows OS, 19
- インストール方法
 - ブートメディアオプション, 14
- オペレーティングシステムのインストール
 - 概要, 9
 - サポートされているオペレーティングシステム, 10
- オペレーティングシステムのインストールの概要, 9

か

- 構成
 - Intel NIC チーミング
 - Windows OS, 68
 - RAID
 - Windows OS, 31
 - コンソール表示オプション
 - 選択
 - Windows OS, 12

さ

- サーバー、電源のリセット, 59
- サポートされているオペレーティングシステム, 10

Windows OS, 10
ソフトウェア
インストールオプション, 20

た

タスクマップ
インストール
Windows OS, 9
追加ソフトウェア
Hardware Management Pack
Windows OS, 66
LSI MegaRAID Storage Manager
Windows OS, 66
インストール
Windows OS, 66
追加ソフトウェアオプション
Windows OS, 65
デバイスドライバ
ドライバが必要な SAS PCIe HBA, 11
ロード命令
Windows OS, 11

は

ブートメディア
要件
Windows OS, 14
ブートメディアオプション
選択
Windows OS, 14
ブートメディアのインストール, 14

ら

リモートコンソール
設定
Windows OS, 13
リモートブートメディア
設定
Windows OS, 16
要件
ウィンドウ OS, 15
ローカルコンソール
設定

Windows OS, 12
ローカルブートメディア
設定, 15
要件
Windows OS, 15

B

BIOS
最適化されたデフォルト設定の確認
Windows OS, 26
設定の編集および表示の手順, 26
ブートモードの設定
Windows OS, 28

H

Hardware Management Pack, 66

I

InstallPack
追加ソフトウェアのインストール
Windows OS, 66
Intel NIC チーミング構成
インストール後, 68
ISO イメージ
Windows OS, 39

L

LSI MegaRAID Storage Manager
Windows OS, 66

O

Oracle System Assistant
「Install OS」タスク
Windows OS, 23
概要
Windows OS, 22
取得, 23
Windows OS, 23

P

PXE インストール
Windows OS, 59

R

RAID
構成
Windows OS, 31

U

UEFI
設定
Windows OS, 25

W

Windows OS
ISO イメージ, 39
サポートされているオペレーティングシステム, 10
Windows Server 2012
メディアを使用したインストール, 35, 39
Windows 展開サービス
Windows OS, 22

